

2024年度 看護職員の負担軽減計画

作成日2024年3月31日

項目	2024年3月(現状・課題)	2024年度の目標	2024年度の達成状況	2024年10月 達成率	2025年3月 達成率
看護職員の確保 (事務部)	<ul style="list-style-type: none"> 今後看護職員の定年退職者が増えてくる状況にあり、継続的な募集活動が必要である 准看護学校への進学者が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 職安への随時募集を図り職員確保に努める(ナース人材バンク利用も考慮する) の高等学校みならず、看護専門学校等への訪問を行い募集活動の強化を図る(学生の育成を図る) 入院セット導入を図り負担軽減する 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師の採用活動を継続し、看護師及び看護補助者の獲得を継続した 入院セットの導入による負担軽減は実施できている 看護専門学校等への訪問は実施できていない状態である 	達成率 0%	達成率 70%
育児休業制度 (事務部)	<ul style="list-style-type: none"> 現在利用者はいない 男性職員の利用は現在までない 	<ul style="list-style-type: none"> 育児休業が取得できる体制の整備を継続する 男性職員も取得可能である事の周知を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 周知を図る取り組みが現状できておらず、次年度の課題である 	達成率 100%	達成率 80%
子の看護休暇等の制度 (事務部)	<ul style="list-style-type: none"> 現在取得している看護職員は少ない(子1人につき年5日、2人以上の場合は年10日取得可能) 深夜業の制限等の制度の利用は女性看護職員が利用している 	<ul style="list-style-type: none"> 子の看護休暇を取得できる体制を維持していく 他制度の周知も図っていく 	<ul style="list-style-type: none"> 制度自体は維持しているが、現状は利用している職員が少ない状況 子の看護休暇だけでなく、家族の介護休暇など活用できる制度の周知が課題である 	達成率 80%	達成率 80%
夜勤負担の軽減 (看護部・事務部)	<ul style="list-style-type: none"> 継続的募集により数名の応募者あり、今後も継続し行っていく・夜勤回数が最も多い看護職員で月10回を数える 各病棟の状況を踏まえ、勤務移動等で対応した 	<ul style="list-style-type: none"> 応募者の希望に添えるような勤務形態・時間を考慮しながら、募集の継続を図る 看護学生の育成を更に図る 夜勤回数を月8回以内にできるよう努力する(インターバル制度導入) 仮眠2時間を含む休憩時間の確保 16時間未満となる夜勤時間の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 概ね実施できたが、夜勤回数を月8回以内にする取り組みは達成できておらず、次の課題である 	達成率 70%	達成率 80%
年休の消化 (看護部・事務部)	<ul style="list-style-type: none"> 4ヶ月に1回の割合で年休を取得してる 年間を通じて取得率に個人差が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> 業務に支障がない範囲で計画的に取得出来るような体制を整える。年5回は取得出来るよう体制を整える 勤務後の暦日の休日の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員の年休取得を年5回以上にする取り組みも達成でき、概ね実施できた。 	達成率 100%	達成率 100%
栄養関係 (管理栄養士)	<ul style="list-style-type: none"> 内科的療養食等に不満を訴える患者様に管理栄養士が直接説明、説得が出来るように努力が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養スクリーニング、MUST、GLIM基準判定は管理栄養士が実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 達成出来ました。引き続き実施します。 	達成率 90%	達成率 100%
リハビリ関係 (リハビリ部門)	<ul style="list-style-type: none"> 患者様の誘導を看護師とリハスタッフで協力して行っている。 患者様に必要な靴のアセスメント・購入を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 患者様の精神的な安定を図り問題行動を減少させる おとなの学校を推進し、患者様の臥床傾向を減らし、機能低下を予防する。 おとなの学校に参加することで、徘徊を減らし転倒を予防する 	<ul style="list-style-type: none"> リハに参加してもらうことで精神症状が落ち着いたり、徘徊や転倒が減ったりと、問題行動を減少させることができた。 認知症治療病棟では、ほぼ全ての患者様がおとなの学校に参加し臥床者が減ったが、精神科一般病棟ではリハに参加せず臥床している患者様がいる。 	達成率 70%	達成率 80%
医療相談室関係 (PSW)	<ul style="list-style-type: none"> 電子カルテ導入になり、引き続き入院時対応と入院時記録反映を行い看護の負担軽減を図っている 引き続き患者様の代理購入をPSWで行い、看護の負担軽減を図っている 	<ul style="list-style-type: none"> 看護部とのコミュニケーションを密にして連携強化し、入退院時の対応はもとより、新患予約対応、入院及び外来患者の対応をタイムリーに行い看護の負担軽減を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 新患予約対応、入院及び外来患者の対応をタイムリーに行い看護の負担軽減を図ったが、病棟との共有の徹底は次年度の課題とする。 入院時対応、入院時カンファレンス、入院時記録反映を行い看護の負担軽減を図った。 	達成率 70%	達成率 70%